

加藤一二三さんから、藤井聡太さんへのメッセージ

校長 沖 田 浩 史

今から4年前の令和2年8月、まだ高校生だった藤井聡太さんが、将棋の8大タイトル戦の一つ「王位」戦を勝ち取り、史上最年少の18歳1か月で「棋聖」と「王位」の二冠に輝きました。同時に史上最速で八段への昇段も決めました。

二冠達成は、羽生善治さんの記録を28年ぶりに塗り替える最年少での達成となり、八段昇段も加藤一二三さんの記録を62年ぶりに塗り替える大記録でした。

4年前と言えば、世の中では、新型コロナウイルス感染症の影響が広がっており、暗いニュースが多かった中、藤井聡太さんの快挙は、明るい話題として大きく取り上げられたことを覚えている人も多いと思います。それまで長年にわたって八段昇段の最年少記録を持っておられた加藤一二三さんは、藤井棋士が八段に昇段したとき80歳でしたが、その加藤さんは、藤井さんに次のようなメッセージを送っています。

「この先、AI、人工知能がいかに隆盛を誇ろうとも、藤井二冠には、人間の探究心と求道心の先にある芸術的な一手により、将棋の世界の感動を追求し、将棋界を沸かせてほしい。」

その後も、藤井さんは新たな最年少記録を更新し続け、昨年10月には、21歳2か月で、将棋界で初となる八冠を達成しました。現在も、快進撃を続けています。

現代社会は、少子高齢化、グローバル化に加えて、自然災害や感染症などにより、ますます不透明になっています。高度情報化は加速し、人間が行っていた仕事をAIが行うようになっているだけでなく、ChatGPTのサイトで質問を入力すると、それに対する回答を、数秒程度で、しかも、様々な言語で、返してくれるような時代になりました。

藤井さんが、AIを使って将棋の研究をしていることはよく知られていますが、藤井さんは、決してAIだけを頼りにしているわけではありません。加藤さんから藤井さんに贈られたメッセージには、藤井さんへの心からの賞賛に加えて、「人間には、AIにはない、よりよいものを目指そうとする探究力や、一つの道を究めようとする求道心があり、そしてその努力の先に感動が生まれるのだ」という思いが込められています。この言葉は、まさにAIに頼らずに発せられた、加藤さん自身の言葉なのだと思います。

皆さんが直面する大学受験においても、AIを上手に使いこなしながら、東高生ならではの探究心、求道心といった「豊かな人間性」を武器に、さらなる高みにチャレンジしてほしい、その努力の先に、AIには味わえない感動が待っていると確信しています。

この「進路の手引き」には、松山東高校の進路状況、進学先の大学の情報のほか、先輩たちからのアドバイスなどが掲載されています。読みごたえのある進路情報誌です。

皆さんには、この「進路の手引き」を、自分の進路の指針として大いに活用し、自分の進路の実現に向けて頑張ってもらいたい、そして、その先にある感動を味わってほしいと願っています。頑張る皆さんを、心から応援しています。